慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『慶應義塾中国文学会報』発刊の辞
Sub Title	
Author	関根, 謙(Sekine, Ken)
Publisher	慶應義塾中国文学会
Publication year	2017
Jtitle	慶應義塾中国文学会報 (Bulletin of The Keio Sinological Society). No.1 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12810295-20170331--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『慶應義塾中国文学会報』発刊の辞

昨年一二月三日に慶應義塾中国文学会が創立され、記念すべき第一回大会が成功裏に開催されました。この第一回大会には慶應義塾を代表して長谷山彰常任理事から力強いご挨拶があり、慶應と深いつながりのある復旦大学中文系陳思和教授からは友情あふれる祝賀メッセージをいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。慶應義塾を縦横に結ぶ有機的で実践的な研究組織を持つことは、私たち中国文学研究者の長年の夢でした。慶應義塾の各学部各部門に展開する研究者有志が設立準備委員会を組織したのはほぼ一年前のことです。この設立準備委員会は本学会創設のため地道で周到な活動を続けてまいりましたが、ここに夢の結晶を見ることができたのは、実に大きな喜びであります。

慶應義塾中国文学会は慶應義塾大学を基盤とした中国文学研究の発展に寄与することを目的とし、慶應義塾に縁のある研究者に学術交流の場を提供する研究組織として設立されました。本学会はまた、国内外の中国文学研究者との研究交流の促進を目指し、慶應義塾における研究者の育成に寄与することも重要な目的としました。本学会の学問領域としては、本来の意味での「文学」全般を想定し、中国文学の他に、中国哲学、中国史学、中国語学、日本漢学にわたる広範な研究分野を対象とすることにしました。

慶應義塾中国文学会第一回大会当日までに、慶應義塾卒業生や塾に研究拠点を置く方、塾で教壇に立っている方など約九〇名の方々が続々と会員として登録されました。学会組織の要となる慶應義塾中国文学会理事会もこれまでの設立準備委員会を中心に正式に発足いたしました。また本学会設立のために多くの方々から尊いご寄付をいただき、計画通り順調に学会活動を開始することができました。『慶應義塾中国文学会報』刊行にあたって、これら奮って会員となられた皆様、ご尽力・ご声援をいただいた皆様の厚いご支援とご協力に対し、理事会を代表して幾重にも感謝の意を表したいと思います。

慶應義塾中国文学会第一回大会では、本学会のこれらの研究領域すべての分野から現役の博士課程在籍者を含む最新の研究発表があり、世代と国籍を超えた熱心な討議が繰り広げられました。そして記念講演として、慶應義塾における中国文学研究を先導されてきた名誉教授岡晴夫先生が、慶應中国学の歩みの回顧と次代へ伝えたいメッセージを熱く語られました。これらを通して、まさに本学会の設立意義を象徴するような豊かな成果が作り出されたと自負しております。

慶應義塾中国文学会は二つの大きな柱を重要な活動内容としております。第一回大会はその一つで、年次の研究発表大会として位置付けられます。もう一つの柱はこの『慶應義塾中国文学会報』の刊行であり、これは毎年刊行を目指す研究発表紀要です。学会報第一号は設立準備委員会が責任をもって編集刊行したものですが、学会設立のお知らせを発信してすぐに、多くの方々から投稿のご希望が寄せられ、本学会への期待の大きさに驚くとともに、私たちの責任の重さを改めて深く感じました。本学会報は査読制をとっており、お寄せいただいた原稿に対し、査読委員会が慎重な審査を行いましたが、限られた予算と紙幅の関係で、残念ながらすべてのご投稿を掲載することはできませんでした。掲載に至らなかった皆様には、本学会の状況をご推察のうえご了解いただき、今後とも本学会へのご支援ご協力をお願い申し上げる次第です。

『慶應義塾中国文学会報』第一号の陣容は非常に多岐にわたっており、慶應義塾における中国文学研究の水準の高さを十分に証明する内容となっています。また本号には慶應義塾大学名誉教授で中文専攻の大先輩である佐藤一郎先生から特別寄稿があり、斯道文庫長佐藤道生文学部教授の日本漢学に関する御論考と文学部中国文学専攻ご卒業の石村広中央大学教授の中国語学に関する御論考が寄せられ、あわせて誌面を飾ることができました。発刊したばかりの本学会報ではありますが、内外の中国研究に輝く成果を発信できたのではないかと確信いたしております。

最後になりましたが、慶應義塾中国文学会の創設は、二〇一五年七月に五〇回をもって終了した早慶中国学会年次公開講演会の際にも提案された計画で、本学会設立の第一回大会にも早稲田大学から多くの先輩友人の方々が駆けつけてくれました。本学会のスタートには早稲田の皆さんの熱い友情があったことは特筆に値します。ここに改めて深く謝意を表し、今後も変わらぬ交誼をお願いする次第です。

慶應義塾中国文学会は学校法人慶應義塾の強いご支援を得て設立されました。私たちの学会活動が慶應義塾の学術研究を高める一因となるよう奮闘することをお誓いし、また併せて、まだ本学会会員となられていない卒業生、本塾講師、研究者、院生の皆さんに本学会へご参加いただくよう再度お訴えし、『慶應義塾中国文学会報』発刊の辞といたします。

二〇一七年一月五日、会長　関　根　　謙